

# ちばの地域福祉

## 「市町村の包括的支援体制の構築に向けて」

千葉県 健康福祉部 健康福祉指導課長  
武内 貢一

日頃から中核地域生活支援センター事業に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、中核地域生活支援センターは、平成16年10月の開設以来、今年で15年目を迎えます。

この間、地域には、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、生活困窮者のための相談窓口など、様々な福祉分野の相談支援機関が整備されてきました。その一方で、中核地域生活支援センターには、既存の福祉サービスでは対応が困難な「制度の狭間」の問題を抱える人や、複数の生活課題を抱える人などから、年間8万件を超える相談が依然として寄せられているところであり、中核地域生活支援センターは地域で重要な役割を果たしているものと考えております。

昨年11月には、中核地域生活支援センター連絡協議会が、地域福祉の増進に努めた功績に対して贈られる「地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰」を受賞しました。

言うまでもなく、中核地域生活支援センターが積み重ねてきた成果の賜物であり、これまでの取組が認められた証として大変喜ばしく思います。

現在、国では、地域共生社会の実現に向けて、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりや、市町村による包括的・総合的な相談支援体制づくりを推し進めています。

県では、市町村の取組を後押しするため、平成29年度から、中核地域生活支援センター事業の中に「市町村等に対するバックアップ事業」を新たに加え、これまでの事業活動の中で蓄積した実践と知見をもとに、市町村に対するノウハウの提供や各分野に精通した人材の紹介・派遣など、地域共生社会の実現に向けた助言や協力を実施してまいります。

また、中核地域生活支援センター自らが、「地域の総合相談は住民に身近な市町村が担う」ことを前提に、制度の狭間や複合的な課題など、広域性・高度専門性を要する相談に引き続き応ずるとともに、市町村や関係機関の皆様との連携を密にし、地域の実情に応じた本県独自の相談支援を推進してまいります。

関係機関の皆様には、各市町村及び中核地域生活支援センターの取組に、引き続き、格別の御理解、御協力をいただきますようお願いいたします

# 『夷隅ひなた』の地域づくり(夷隅圏域)

「夷隅ひなた」は、平成 17 年 4 月いすみ市深堀に事務所を構えてスタートしました。いすみ鉄道と児童養護施設「子山ホーム」がある山に挟まれた、緑豊かでのどかな場所。そこからいすみ市大原へ移転して 3 年。場所も分かりやすく、広くなった新事務所は目の前を毎日車がせわしなく行き交っています。

平成 18 年。地域福祉に携わる有志で実行委員会を立ち上げて「夷隅郡市タウンミーティング～福祉と医療を考える～」を開催しました。住民が「子どものこと」「高齢者のこと」「障害者のこと」「医療のこと」を発言し合いました。

これに端を発して、現在も続いているのが『夷隅地域づくりネットワーク』です。当時の代表は「話せる場の大切さを感じました。(略)“困った”“変わってほしい!”を共に探して行きたい」と話しています(広報ひなた Vol9 より)。

ネットワーク活動は、会員が仕事後に集まり日頃感じている様々な地域福祉の課題について話し合います。それをもとにいくつかの企画がうまれました。



平成 21 年。実行委員会を立ち上げて「いすみこども祭り」を開催しました。当時「どこにこんなにたくさんの子どもがいたの？」と驚いたことを思い出します。今年第 10 回目を迎え、毎回 1000 人を超える参加者があります。

平成 22 年。「いすみ市の福祉を語り合う会」を開始。市長をはじめ市職員とネットワーク会員ほか市民がつどい「児童」「障害」「高齢」のグループごとに意見交換を行いました。「行政も市民も一緒にまずその実態を理解し、話し合っってその解決の方向を共に導き出すこと」を目的として。その後も防災や医療などをテーマにして実施。

「子ども若者フォーラム」として市長や市職員と中学生、高校生が話し合う取り組みもおこないました。

「語り合う会」にはルールがあります。

- 1、双方向性による市民と行政の議論の場
- 2、批判・非難ではなく、提案による協議
- 3、一人の人の困りごとを、みんなで理解し、どうしたら良いかを考える
- 4、一人で時間を使わない
- 5、全会一致で施策を生み出せるように努力する



そして今。時が経ち、人も変わる中で中断している活動もあります。思いを途絶えさせず地域で仕事をしていきたいと思えます。

# 『ひだまり』の地域づくり(安房圏域)

## 子育て講演会

ひだまりの「子育て講演会」はさかのぼること9年前、平成21年度、ひだまりの児童部会として「障害のある子もない子も地域で一緒に子育てを！」をスローガンに、保護者、支援者、地域の方々と一緒に学ぶ子育て講演会を、企画、開催したのが始まりでした。

「発達障がいの理解と支援の講演会」を全3回シリーズで企画し多くの方にご参加いただきましたが、保護者の方から「子どもがいると参加できなくて…」のご意見を受け、次年度からは「社会福祉法人安房広域福祉会児童デイセンターこすもす」にご協力いただき、保護者の方が参加しやすい託児付きの講演会を企画しました。

また平成26年度からは「NPO法人たからばこ」も加わり、現在は3事業所共催で企画運営をおこなっています。また、地域の高校、専門学校、大学にもご協力をいただき、託児の学生ボランティアを募りスタッフとして参加していただくようになるなど、協力スタッフなども徐々に増えていき、「みんなで一緒に作り上げる講演会」となりました。

昨年度の子育て講演会は、親子で糸賀一雄賞を受賞された社会福祉法人あおぞら共生会副理事長 明石洋子氏を講師にお招きし「笑顔で街に暮らす～ありのままの子育て・自立への子育て～」をテーマに、自閉症の長男徹之氏を川崎市の公務員に育て上げた道のりについてご講演いただきました。子育て中の様々な困難をチャンスと捉え、地域の理解者の輪を広げ、本人の自己決定を尊重しながら道なき道を歩んでこられた実体験をリアルにお話いただきました。



講師の明石洋子先生の朗らかな人柄が伝わる講話に、会場は終始笑顔が溢れ、また徹之氏の映像資料には驚きと感動、そして、仕事に励む真摯な姿勢に心が洗われるようでした。

参加者から「経験に基づく気づきから、子育て、生活、活動を続けてこられた先生のお話は、わかりやすいことはもちろんですが、心に届く、響くものでした。」「今まで地域の中で生きていくと感じていなかったのが、これから生きていく中で、人との向き合い方、かかわり方の参考にさせていただきます。」「心が温かになったご講演でした。ありがとうございました。」等の感想をいただき、子育てや支援のヒントを得る機会となったようでした。

今後も、子どもや保護者、支援者、地域の方々等が共に感じ、考え、助け合い、行動する、そんなきっかけ作りをする場の提供、また、さらに地域のニーズに合った活動ができるよう、地域の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。



講師の先生を囲んで参加スタッフと記念撮影

## 分野横断鉄道[住居]

教育

医療

雇用

国際

消費

住居

国際

国際

住居

消費

国際

平成29年7月から、主に高齢者・障害者が賃貸物件への入居に関してお困りの際にお手伝いをする相談窓口を行っております。相談件数は25件/月くらいあり、中には、現在の住居に安心して住み続けるための相談もあります。

賃貸物件情報を提供するだけでなく、日常生活の見守りや安否確認、身寄りのない方などの身じまいサービスも提供しております。今まで相談に来られた方の中には立ち退きを余儀なくされた方や隣人トラブルの問題を抱えた方、家計を圧迫している家賃を下げたいというご相談もありました。相談解決には船橋市内の協力不動産店を始め、船橋市内で活動している様々な機関にご協力頂いております。1年間活動する中で、オーナーや不動産店と折り合いが付かず転居出来なかったケースや解決出来なかった問題もありましたが、更により良い情報やサービスを提供して問題解決の間口を広げ、【住みいるサポート船橋】を通して一人でも多くの方が安心して船橋市に住み続けられるよう、皆様の相談に寄り添っていきたくと考えております。

船橋市居住支援協議会 【住みいるサポート船橋】 金澤 志歩

雇用

医療

教育

動物



## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

「千葉県福祉の10年を語る会」

### ～この10年間の千葉県の福祉を振り返って先を展望する～

- 日時：平成30年8月5日（日）13：30～16：45
- 場所：千葉県教育会館501会議室 ●参加者：千葉県内の福祉関係者（定員200名）
- 参加費：資料代500円
- 内容 趣旨説明：沢尻茂（中核地域生活支援センター連絡協議会会長）  
総合相談：基調提案 吉井稔（中核地域生活支援センターさんネット）  
暮らしの場所：基調提案 高橋克己氏（はぐくみの杜）  
共生型ケア：基調提案 飯田大輔（社会福祉法人福祉楽団）  
医療と福祉：基調提案 大屋滋氏（総合病院国保旭中央病院）  
みんなでディスカッション：進行 野沢和弘氏（毎日新聞）
- 申込先：中核地域生活支援センター海匝ネットワーク  
FAX 0479-60-2579 メール sawayaka-n@rosario.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：いちほら福祉ネット（市原圏域）市原市東国分寺台3-10-15

TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市口-838

TEL0479-60-2578 FAX:0479-60-2579